

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2021/01/04 ~2021/02/05)

## 1. 勉学の状況

オンライン留学が始まりましたが、履修予定の科目のうち二つしか始まっていないので主にオリエンテーションなどについて記します。

オンライン留学であるため、すべてインターネットを通して書類の提出や個人情報の入力、アカウントの作成を行いました。初めてのことも多く苦戦しましたが、難なくこなすことができました。

続いて、履修登録についてです。今年はコロナの影響のためか、授業日程がギリギリまで出ませんでした。さらに、履修登録の際には、SISUというシステムを使うのですが、それにログインできたのも履修登録期間近くだったので、急いで授業を担当している教授に連絡して授業形態や日程などについて質問するなど、バタバタしました。授業の時間がバッティングしてしまうこともあったので、履修を取りやめないといけない授業もありました。

今週始まった2つの授業について書きます。

Formal Language Development この授業では、英語の言語的特徴を学習しつつ、若い学習者に対してどのようにフォーマルな言語を教えるかを学びます。毎回の宿題としてMoodleに掲載された資料を読んでまとめと感想を書くことになっています。初回の授業では、自己紹介から始まり、言語の働き、特徴について学びました。受講している生徒がほとんど現地の学生で、彼らはJULIETというプログラムに属しており、仲が良いようで、私はなかなか会話に入ることができませんでした。次からは、臆せず自らの考えを示していきたいと思います。

Education in Finland フィンランドの教育システムや各学校段階について学ぶ授業です。他国の教育との相違点などを挙げつつ、学習していくようです。改めて、自分が受けてきた日本の教育を見直してグループワークで意見を述べることができるように準備したいと思います。

## 2. 生活の状況

フィンランドは日本より7時間遅く、大体の授業を夕方から夜にかけて受けることになるので、あまり私生活に影響がない状態で留学を続けることができます。

オンライン留学は、自分の家から受講できるので今までと変わらぬ生活ができることが大きな利点です。実は、現地の学生の間でコロナの感染者が出てしまっているようなので、正直渡航しなくて良かったと思います。その一方で、現地の学生と交流することができないこと、現地の生活を体験できないことが大きなデメリットです。また、私の家庭のインターネットの状況があまり良くないので、同時双方向型の授業をスムーズに受けられるか心配です。

現地の学生とたまにメッセージのやり取りをしています。生活の状況や履修に関してなど、気にかけてくれています。現地はやはり北欧なので雪がすごく、気温もマイナスになる日が続いているようです。

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2021/02/06 ~2021/04/05)

## 1. 勉学の状況

あっという間に月日が過ぎて、留学も残り1ヶ月となりました。今回の報告期間は内容が濃かったです。

全体として実感したのは、自分の英語力の乏しさです。自分が伝えたいことをもっと素早く、丁寧に書いたり話すことができれば、授業内で話し合いに参加できるし、課題の作業効率も良くなると思いました。語学留学を経験しておくべきだったと思っています。それでは、各授業の報告をします。

Education in Finland フィンランドの教育システムについて学ぶ授業です。終わりに差し掛かっているため最終テストとグループ課題がありました。最終テストは講義や課題として出ていた文献から出題されていたためそこまで難しくはありませんでした。しかし、グループ課題はかなり苦戦しました。他国の留学生と共同してスライドを作成するのですが、構想段階で誤解が生じたり議論がスムーズに進まなかったため期限ギリギリまで取り組みました。対面ではないため、私が発言したことを相手が本当に理解しているのかを読めず不安が高まりました。ただ、この授業を通して国ごとに教育を比較することができ、将来に生かせることを学べた気がします。一つ悔いがあるとすれば、現地の学校を見学して実践を学びたかったです。

Formal Language Development 英語の言語的特徴を学習して、若い学習者に対してどのようにフォーマルな言語教育をしていくかを考える授業です。環境に慣れてきて少しずつ議論に加わることができるようになってきました。最近では文法を学習者にどのように導入するかを議論しています。最終課題としてポスタープレゼンテーションが提示されています。この授業で学んだことと自分の授業実践で扱いたいことを組み合わせ満足いくものに仕上げたいと思います。

Key Considerations in Intercultural and International Education 異文化間教育と国際教育について議論する授業です。学生が自らの意見を述べるのがとても多いです。様々な国からの留学生が受講しているため、異国の教育事情を共有しています。雰囲気はフランクですが扱う内容のレベルは高いです。国際的な視点に立って教育全般・言語教育に焦点を当てて学習しています。

## 2. 生活の状況

グループ課題を進めるために、現地に留学している学生と日をまたいでやりとりをすることがありました。私はあまり夜更かしが得意ではないので辛かったです。上でも述べましたが、英語力不足が露呈し始めました。対面であれば、私の発言・文章が正確に伝わっているか感じ取ることができますが、オンラインなので不安です。また、現地にいればこの苦しみを共有できる友達もいるのですが、自宅からの受講なので自分で乗り越えていくしかありません。

ここまでネガティブなことを多めに述べてきましたが、充実しているのは事実です。この留学でやりたいことを実現することができています。残り少なくなってきましたが、より充実したものになるように努めていきます。

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2021/04/06 ~2021/05/05)

## 1. 勉学の状況

長いようで短かった留学が終わりました。困難を抱えつつも成果を少しでも得られたことはこれからの学習につながると思っています。

Formal Language Development 若い学習者にどのようにフォーマルな言語教育をするべきかを学ぶ授業です。最終回にポスタープレゼンテーションをしました。私の発表のテーマは「授業での英詩の有効性」でした。文献調査しながら発表資料を作ったので濃い内容になりました。ZOOMでの発表だったので、周りの生徒の反応をあまり見ることができませんでしたが、自分なりにできたと思います。最終課題として文献を読んで自分の考えをまとめる課題がありました。文献の内容よりも自分の意見を書くことに比重を置くと、先生にはきちんと評価されました。この授業を通して、文法学習でのコンテキストの重要性を学びました。

Key Considerations in Intercultural and International Education 教育を国際的な視点から捉えて意見を出し合う授業です。全授業の大半を外部の講師が彼の研究のトピックについて話していました。この授業を受けることで、自分とは境遇の異なる子供たちへの教育について考えることができました。ただ、受講している生徒がほとんど大学院生だったので議論に参加することができませんでした。最後の授業ではグローバル人材を育成するための教育のあり方を発表しました。この授業で学んだことはあまり日本人には馴染みのないことですが、将来的に学校教育で必要になることが多かったです。

## 2. 生活の状況

生活に関しては今までと特に変わりありません。ただ、一つ大きな失敗をしてしまいました。Key Considerations in Intercultural and International Education の最後の授業に遅刻してしまいました。その原因は、サマータイムです。これまではフィンランドとの時差が7時間だったのですが、5月に入ってから6時間になっていました。それに気づかず、授業に参加した時には頭が真っ白になりました。幸い、教授が優しくかったので怒られはしませんでした。思いがけないところで文化の違いを感じました。他国の留学生との交流は授業内でしか持つことができませんでした。文化交流があまりできなかつたことは悔いが残ります。留学全体を振り返ると、正直辛いことの方が多かったです。生活リズムが崩れたり、言語面で苦しんだりしました。それでも貴重な経験ができたことは間違いありません。今後の学習に生かしていきたいです。